

記 入 日 2013 年 1 月 15 日

1. 概 要

実践団体名	①NPO 法人はままつ子育てネットワークぴっぴ		
連絡先	鈴木 里枝子 電話 053-457-3418		
プランタイトル	子どもを守る防災ネットワーク事業		
プランの対象者※1	1、2、3、8、9、10、 11、12、13、14、17	対象とする 災害種別※2	1

※1 別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※2 別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。

【プランの目的・ここがポイント！】

これまでぴっぴが行ってきた防災講座「ぼうさいぴっぴ」では、①楽しみながら学び、参加者が自主的かつ積極的に防災に取り組むこと、②女性や子どもの視点を取り入れること、③地域防災に女性が入り込むことなどに着目して行ってきた。

活動の中から、「防災教育」として、子どもを守るだけの存在としてでなく、子ども自身が防災を学び、生き抜く力を育てることが必要であることが感じられた。

そこで、未就園児とその親子を対象に、「防災プレ教育」として、子どもの発達段階にあった防災教育のプログラムを開発し、講座を広めていく。

【プランの概要】

災害は、いつ起こってもおかしくない。また、いつ・どのような時に起こるか分からないものである。防災の知識は広がりを見せ、備蓄などの備えを各家庭でしているが、発災直後、家族の安否確認など、必要があると感じつつも、どうするべきかを考えていない子育て家庭が多い。そこで、特に「モノ」以外の備えである「家族防災会議」の必要性・重要性に気づき、実行していくためのプログラムに重点をおく。

【期待される効果・ここがおすすめ！】

災害は防ぎきることはできないので、いざという時のために備えておくことで被害を最小限にするよう意識していくことの重要性に参加者が気づく。また、家族バラバラの時に被災してもお互いに生き延びることができるように、各家庭で家族防災会議を定期的かつ継続的に行う。子どもの成長に合わせて、子ども自身が防災知識を学ぶことにより、親の不安拡大を防ぐ。

さらに、防災の意識を持ち続けるために、家族防災会議を定期的・継続的に行うことが大変有効である。

2. プランの年間活動記録 (2012 年)

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
4 月	●企画立案 ↓	●講座の内容を企画する。年間計画を見直す。 ↓	
5 月			
6 月	●教材となる「防災クイズ」「家族防災カード」企画案作成。	●「防災クイズ」「家族防災カード」原案作成と直し。	
7 月	●講座参加希望団体の募集。 ↓	●講座チラシを配布。参加団体を募集し、日程調整する。 ↓	
8 月			
9 月	●講座実践①		●子育てサークル 4 団体を対象に、講座を開催する。
10 月	●講座実践②		●子育てサークル 3 団体と、地域の大人や施設管理者、サークル会員以外の親子を対象に講座を開催する。
11 月	●講座実践③ ●団体の自主事業で行う防災講座で、「家族防災カード」配布。		●児童養護施設内で行っている子育てサークル会員と、施設職員を対象に講座を開催する。 ●幼稚園の防災講座内で説明し、各自、自宅で活用してもらう。
12 月			●事業のまとめと反省 ●報告書作成 ↓
1 月			
2 月			
3 月			

3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号：⑰】※3

タイトル	子どもを守る防災ネットワーク事業														
実施月日（曜日）	2012年9月27日(木)10:00～11:30														
実施場所	浜松市立長上公民館														
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 氏名：鈴木 里枝子、堀之内 陽子 所属・役職等：副理事長、事務局長														
所要時間または「コマ数×単位時間」	90分														
プログラムのカテゴリ、形式※4	2、14														
活動目的※5	1														
達成目標	防災プレ教育の可能性と必要性に参加者が気づき各家庭で実践する。														
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・導入（講座の目的とめあての説明） ・防災クイズで基礎的知識を確認。減災を意識する。 ・防災紙芝居で親子で発災時の状況を考える。 ・「家族防災カード」の説明と、定期的・継続的に行う意義の説明 														
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・防災クイズ ・家族防災カード ・防災紙芝居 ・託児のための保育士 ・会場設営・駐車場整理などのためのアシスタント 														
参加人数	大人 30 名、子ども 33 名、保育士 8 名、合計 71 名														
経費の総額・内訳概要	<table> <tr> <td>・会場費（長上公民館ホール）</td> <td>900 円</td> </tr> <tr> <td>・役務費（託児謝礼）</td> <td>25,200 円</td> </tr> <tr> <td>・消耗品費（託児備品など）</td> <td>3,000 円</td> </tr> <tr> <td>・消耗品費（講師・託児用水）</td> <td>1,200 円</td> </tr> <tr> <td>・諸謝金（アシスタント謝礼）</td> <td>2,800 円</td> </tr> <tr> <td>・交通費（アシスタント・講師ガソリン代）</td> <td>1,380 円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>34,480 円</td> </tr> </table>	・会場費（長上公民館ホール）	900 円	・役務費（託児謝礼）	25,200 円	・消耗品費（託児備品など）	3,000 円	・消耗品費（講師・託児用水）	1,200 円	・諸謝金（アシスタント謝礼）	2,800 円	・交通費（アシスタント・講師ガソリン代）	1,380 円	合計	34,480 円
・会場費（長上公民館ホール）	900 円														
・役務費（託児謝礼）	25,200 円														
・消耗品費（託児備品など）	3,000 円														
・消耗品費（講師・託児用水）	1,200 円														
・諸謝金（アシスタント謝礼）	2,800 円														
・交通費（アシスタント・講師ガソリン代）	1,380 円														
合計	34,480 円														
成果と課題	<p>【成果】 子どもが親と保育スペースを行ったり来たりする中での講座だったが、防災クイズや紙芝居などを駆使して、集中力のある講座を行えた。</p> <p>【課題】 家族防災会議の必要性を感じて、参加者が各自自宅で、定期的・継続的に行うことの追跡が難しい。 「子どもの発達に合わせて防災教育をする」ということを、具体的に伝えるための資料等の検討が必要。</p>														
成果物	『ぴっぴの家族防災カード』『防災クイズ』														

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：⑰】※3

タイトル	子どもを守る防災ネットワーク事業												
実施月日（曜日）	2012年10月26日（金）10:30～11:30												
実施場所	浜松市立新橋体育センター												
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 氏名：原田 博子、鈴木 里枝子、堀之内 陽子 所属・役職等：理事長、副理事長、事務局長												
所要時間または「コマ数×単位時間」	60分												
プログラムのカテゴリ、形式※4	2、14												
活動目的※5	1												
達成目標	防災プレ教育の可能性と必要性に参加者が気づき各家庭で実践する。												
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・導入（講座の目的とめあての説明） ・防災クイズで基礎的知識を確認。減災を意識する。 ・防災紙芝居で親子で発災時の状況を考える。 ・「家族防災カード」の説明と、定期的・継続的に行う意義の説明 												
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・防災クイズ ・家族防災カード ・防災紙芝居 ・託児のための保育士 ・会場設営・駐車場整理などのためのアシスタント 												
参加人数	大人 45 名、子ども 45 名、保育士 10 名、合計 100 名												
経費の総額・内訳概要	<table> <tr> <td>・役務費（託児謝礼）</td> <td>23,625 円</td> </tr> <tr> <td>・消耗品費（託児備品など）</td> <td>3,000 円</td> </tr> <tr> <td>・消耗品費（講師・託児用水）</td> <td>1,200 円</td> </tr> <tr> <td>・諸謝金（アシスタント謝礼）</td> <td>2,800 円</td> </tr> <tr> <td>・交通費（アシスタント・講師ガソリン代）</td> <td>960 円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>31,585 円</td> </tr> </table>	・役務費（託児謝礼）	23,625 円	・消耗品費（託児備品など）	3,000 円	・消耗品費（講師・託児用水）	1,200 円	・諸謝金（アシスタント謝礼）	2,800 円	・交通費（アシスタント・講師ガソリン代）	960 円	合計	31,585 円
・役務費（託児謝礼）	23,625 円												
・消耗品費（託児備品など）	3,000 円												
・消耗品費（講師・託児用水）	1,200 円												
・諸謝金（アシスタント謝礼）	2,800 円												
・交通費（アシスタント・講師ガソリン代）	960 円												
合計	31,585 円												
成果と課題	<p>【成果】 参加者（大人・子ども含めて）100名ということや、防災についての知識の温度差がある中での講座であったが、それぞれが危機感を感じて、家族防災会議を行い備えたいという感想が聞かれた。</p> <p>【課題】 子育て世代にとって家族防災会議の重要性を広めるためには、もっと多くの講座開催の必要性があると思われる。</p>												
成果物	『ぴっぴの家族防災カード』『防災クイズ』												

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。



【実践プログラム番号：⑰】※3

タイトル	子どもを守る防災ネットワーク事業
実施月日（曜日）	2012年11月6日(火)10:30～11:30
実施場所	児童養護施設 社会福祉法人葵会清明寮 子育て支援ひろばすずらん
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 氏名：鈴木 里枝子、堀之内 陽子 所属・役職等：副理事長、事務局長
所要時間または「コマ数×単位時間」	60分
プログラムのカテゴリ、形式※4	2、14
活動目的※5	1
達成目標	防災プレ教育の可能性と必要性に参加者が気づき各家庭で実践する。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・導入（講座の目的とめあての説明をする。） ・防災クイズで基礎的知識を確認し、減災を意識する。 ・防災紙芝居で親子で発災時の状況を考える。 ・「家族防災カード」の説明と、定期的・継続的に行う意義の説明をする。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・防災クイズ ・家族防災カード ・子どもの命を守る学習記録 ・子どもを守る防災教育チェックリスト ・防災紙芝居 ・託児のための保育士 ・会場設営・駐車場整理などのためのアシスタント
参加人数	大人4名、子ども5名、寮のスタッフ4名、保育士1名、合計14名
経費の総額・内訳概要	<ul style="list-style-type: none"> ・役務費（託児謝礼） 3,938円 ・消耗品費（託児備品など） 2,000円 ・消耗品費（講師・託児用水） 750円 ・諸謝金（アシスタント謝礼） 2,800円 ・交通費（アシスタント・講師ガソリン代） 1,180円 合計 10,668円
成果と課題	<p>【成果】 少人数だったため、個別に不安を感じていることや不明点などを学べ、防災家族会議についてよく理解してもらえた。</p> <p>【課題】 開催日の頃、ノロウィルスなどが流行したため、受講者が極端に少なくなりました。1回目の講座の反省から、「子どもの発達に合わせて防災教育をする」ということを具体的に伝えるために、「子どもの命を守る学習記録」「子どもを守る防災教育チェックリスト」を作成した。親の意見を参考に、内容の一部見直しが必要と思われる。</p>
成果物	『ぴっぴの家族防災カード』『防災クイズ』『子どもの命を守る学習記録』『子どもを守る防災教育チェックリスト』

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：⑰】※3

タイトル	子どもを守る防災ネットワーク事業
実施月日（曜日）	2012年11月13日(火)9:30～11:00
実施場所	掛川市あんり幼稚園部
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 氏名：鈴木 里枝子、堀之内 陽子 所属・役職等：副理事長、事務局長
所要時間または「コマ数×単位時間」	90分
プログラムのカテゴリ、形式※4	2、14
活動目的※5	1
達成目標	防災プレ教育の可能性と必要性に参加者が気づき各家庭で実践する。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	・防災講座の中で、家族がそろっている時に発災するとは限らないことを再確認し、いざという時のために、「家族防災会議」を行うことの必要性を話す。 ・「家族防災カード」の説明と、定期的・継続的に行う意義の説明をする。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・防災クイズ ・家族防災カード ・子どもの命を守る学習記録 ・子どもを守る防災教育チェックリスト ・防災紙芝居
参加人数	大人 65名、園職員 5名、年長組 60名 合計 130名
経費の総額・内訳概要	なし(防災教育チャレンジプラン以外の事業のため)
成果と課題	【成果】 園からの依頼の防災講座の中で、防災家族会議の重要性や、幼児でも発達に合わせて防災を身につけさせるようにすることの意義を伝え、参加者からは、もの以外の備えの見直しの必要性を感じてもらえた。 【課題】 津波等の大きな被害を想定されていない地域のため、防災についての危機感があまり感じられていない地域のため、これまでとは強い関心を持つポイントが違っていた。地域の特徴を踏まえ、重点ポイントを変えて講座をすすめる工夫が必要。
成果物	『ぴっぴの家族防災カード』『防災クイズ』

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。

4. 苦勞した点・工夫した点

<p>プランの立案 と調整で 苦勞した点 工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 防災講座を大人向けに行う場合は、2 時間ということが多いが、親子で参加の場合は子どもに配慮し、60 分～90 分にした。 ● 子どもがいると講座に集中できないという声があるため、託児を確保し、子どもは講座スペースと保育スペースを自由に行き来できるようにした。 (子どもが泣いても、保育スペースに行くことで、他の参加者に気兼ねしないでよいため) ● 部分的に話を聞くだけでも、学ぶことができるような仕組みづくりと、子ども自身が興味を持ちやすい仕組みづくりを心掛ける。そのため、内容の組み立てで、最初に講座の趣旨やめあてを説明する。参加者が興味を持っている部分や、疑問を感じていた部分だけでも逃さず参加できるようにした。 ● 防災教育チャレンジプランとは別の防災事業で、オリジナルの紙芝居を作成したので、その紙芝居を活用した。 ● ○×クイズであれば、小さな子どもでも参加しやすいため、○×クイズ方式の防災クイズで、防災知識の差がある参加者に対して、基礎知識の共有ができるよう配慮した。 ● 「家族防災カード」にぼうさいぴっぴの特徴である「女性や子どもの視点」を入れた。
<p>準備活動で 苦勞した点 工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 短時間で「防災基礎知識」「防災プレ教育の意義」「家族防災会議の必要性と実際のやり方」などを説明するため、防災クイズの選定が大切だと思い、講座全体にストーリー性を入れられるよう配慮した。 ● 講師が話をして、参加者に身につけてほしいことがたくさんあるが、受動的な講座にしないために、参加者に、考える時間や意見を言ってもらう時間を取り入れた。 ● 「家族防災カード」の説明だけでなく、各家庭に帰ってから実際に使ってもらうために、説明書を作成した。 ● 各家庭で家族防災会議を行い、「家族防災カード」を使ってもらうために、大人用と子ども用を分けて作成することとし、記入内容を吟味し、子ども用には家族写真やブリクラを貼ることができるようにした。カードの大きさについては、使いやすくするために、折って財布に入れられる大きさにまとめた。
<p>実践に 当たって 苦勞した点 工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 講座中の親への声掛け 防災講座に参加したい親に対して、保育スペースで親と一緒に遊びたい子どもがいる場合、託児者に上手に声掛けをしてもらい、親が参加しやすい状況づくりをした。また、全部を通して参加できない場合(子どもがぐずるなど)も、部分的なところでも持ち帰ることができる知識などを得てくれればよいと、補助スタッフから声掛けをした。 ● 参加者の不安解消につなげる 防災を学ぶ時、ほとんどの人が被災の経験はない。そこで、さまざまな危険性や恐怖感のある話で参加者の不安になる気持ちをあおるのではなく、大災害時に起こった事実をできるだけ正確に伝えながらも、それに対して必要な備えなどの不安を解消できるアドバイスを入れるように配慮した。

5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	浜松市立新橋体育センター	講座の会場提供・参加呼びかけ
	掛川市あんり幼稚園部	講座の参加
保護者・ PTAの組織	掛川市あんり幼稚園部父母会	講座の参加と参加呼びかけ
地域組織	浜松市立新橋体育センター周辺地域(新津地区自治会)	講座への参加呼びかけ
国・地方公共団体・ 公共施設	浜松市危機管理課	ぼうさいぴっぴ開催に向けての普段からの連携・情報提供等
	掛川市福祉課	ぼうさいぴっぴ開催への理解と協力
企業・ 産業関連の組合等		
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等	子育てサークル たんぽぽ組・こねこ組・OCEAN KIDS・ ピノキオ・につばしキッズ☆ぐんぐん・ につばしキッズ☆ぴよぴよ・パオパオ	講座への参加と参加呼びかけ・日程調整
	児童養護施設 社会福祉法人葵会清明寮	講座の参加と参加呼びかけ・会場提供
職業、職能団体・ 学術組織、学会等		



6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p>成果として 得たこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●乳幼児がいるから、防災講座は参加できないものだと思い込んでいた親や、かつての防災訓練のイメージ(学校や地域でやらされているという感覚)を持っていた参加者の、子ども連れだからこそ知っておきたいことや備えておきたいことがあるということの気づきになった。 ●子どもはすぐに成長するので、発達段階に応じて、防災についても親子で学ぶ必要があることを伝えられた。 ●防災クイズ(○×クイズ)や紙芝居など、子どもが参加できる仕掛けづくりと、それをテンポよく進めることによって、子どもと一緒にいる親の意識が散漫になりがちな状況から、集中力のある講座を開催できた。 ●「家族防災カード」への記入は、各家庭に持ち帰ってからになるが、参加者にとっては、持ち帰って家族全員で考える機会作りになったと喜ばれた。 ●子どもと一緒に家族防災会議を定期的・継続的に行うために、「家族防災カード」だけでなく、「子どもの命を守る学習記録」「子どもを守る防災教育チェックリスト」を作成した。これらは、母子手帳にはさみ、家族防災会議以外の際も、見直しをし、活用するために作成した。
<p>全体の反省・ 感想・課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●通常は 2 時間程度の講座を行っているが、子どもと一緒に講座を行うという環境では、保育士の託児をつけても 60 分～90 分が限界である。参加者のために講座の内容に集中できる環境を準備したいが、託児にかかる経費が大きく、今後講座を継続していくためには、受益者負担ということで、託児費用の一部負担を参加者に協力してもらうことも検討しなければならない。 ●防災への関心や実際の備えの状況が、参加者により大きな開きがある中、減殺するために必要なことを知らせることができた。その中でも発災直後の家族の安否確認のための備えとして「家族防災会議」を普段から行っておくことの重要性に気づき、「家族防災カード」を各家庭で活用したいという参加者からの声があがり、この講座の目標を達成していると思われる。 ●幼児でも守るだけの存在としてではなく、子どもの発達に合わせて徐々に防災力を育てること＝防災プレ教育の必要性と可能性に気づいてもらえた。普段の生活の中では防災は忘れがちであるが、子どもはあっという間に成長するため、普段から家族で防災を考えるきっかけになると思われる。
<p>今後の 継続予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●防災クイズは、随時増やしていき、受講対象年齢別、あるいは、カテゴリ別などにしていく予定。 ●「ぼうさいぴっぴ」を開催する時の、参加者の状況によって、このプログラムを積極的に取り入れていきたい。 ●子育てサークル・子育て支援団体の日常の活動の際に、「ぼうさいぴっぴ」を取り入れてもらい、広めていきたい。 ●防災講座の依頼が県外からもいただけるようになってきたが、さらに広く知ってもらえるようにするため、このプログラムのサイトへの掲載などを検討したい。 ●「家族防災会議」を家族で継続して行うことを定着させ、他の家族との「家族防災会議連絡会」のようなものを定期的に行うことで、他の家族での報告を聞き、自分たちの行っている内容を深めるようにサポートしていきたい。

7. 自由記述欄 ※6

※6 自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守をお願いします。

防災教育チャレンジプラン 家族防災会議 学習計画 (60分講座)				
ねらい	災害はいつ起こるか分からない。家族が離れ離れになっている時に、災害が起こった場合、どのように安否確認するか、あらかじめ家族で話し合っておくことが重要であることに気づく。			
背景	東日本大震災では、災害が起こった直後、家族間の連絡が取れず、母親が一人で子どもを守り、夫は職場で対応したために、埋められない溝ができて離婚した家庭もあった。一方、SNSやツイッターなどをうまく活用して連絡を取り合い、危機的状況を助け合ったことによって、絆を強めた家庭もあった。災害は起こってみないとどのような状況が待ち受けているのか分からない部分があるが、命を守るために、あるいは、モノや心の被害を最小限に食い止めるためにも、あらかじめ家族で話し合いを持っておく必要がある。			
参加者	子育てサークルの会員。(未就園児と保護者)			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・災害が起こる前に、家族でいざという時のためのルールを決めるなど、確認しておく必要があることに気づき、自分の家庭で決めておく必要がある項目を挙げる。 ・幼児でも守るだけの存在ではなく、子どもの発達に合わせて防災教育を行う必要があることに気づく。 ・各家庭で、災害時の行動や、家族内の決め事を、家族全員が周知しておき、定期的かつ継続的に確認し合う必要があることに気づき、各家庭で実行する。 			
方法	紙芝居の後には、グループに分かれ、グループ討議を中心にすすめる。			
	主な発問など	予想される参加者の反応	留意点	
講座のすすめ方	導入 (00分)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 今日の講座注意事項と目的説明 2. 大地震が発生した時、自分の家やよくいる場所で起こりうる可能性のある災害はどのようなものか？地震以外の災害は大丈夫か？どのようなになるか？想像して、あるいは経験から発表してもらおう。 3. 防災〇×クイズ 	<ol style="list-style-type: none"> 2. 津波、水害、竜巻、土砂崩れ、火災、電話やメールが繋がらない、ライフラインが使えない。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 備えや防災に関する知識に差があるが、知っておくことがいざという時の冷静な判断力につながる。これから、情報収集や興味関心を持ち続けることが必要。子どもは保育スペースと講座スペースを行き来するのはOK。 2. ハザードマップの危険性。安全な場所の人ほど、亡くなった。
	展開 (00分)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 紙芝居「その時、きみはどうする？」を読み聞かせする。 2. 発災直後、園児や児童のいる家庭での子どもの迎えはどうするか決めているか？問いかける。 3. グループに分かれ、自分の家庭で話し合っておく必要がある項目は何かを考える。 4. 家族防災会議は、家族での話し合いだけでなく、他にもやっておきたいことを紹介する。 5. 「家族防災カード」の各家庭での活用方法を説明する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害はいつ起こるか分からない。家族がバラバラの時はどうするか？ 2. 子どもの迎えは大きい順か、小さい順か？ 3. 避難場所の確認、連絡先・連絡方法、学校等の迎えについて 4. 「171」の練習。備蓄品の確認、避難経路の確認、避難経路上の危険個所の確認。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発災直後は、情報が混乱する。デマに注意。紙芝居の中のデマ。 2. 携帯・メールは不通。メールは送信できても受信ができていないか確認できない場合あり。ひとりで行動できる年齢なら各自で逃げるが基本として、考えてもらおう。兄弟の迎えが必要な場合はどちらを先に行くか？年齢・障がいの有無も考慮 3. 災害後仕事優先の夫に不満を感じ、離婚になったケースもある。 5. 家族防災カードの「大人用」「子ども用」の違い。
	まとめ (00分)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの年齢に合わせて、子どもにも主体的にかかわらせることの必要性和、かかわらせ方を紹介する。 2. 家族防災会議は、1回だけやるのではなく、定期的かつ継続的に行う必要があることを話す。 3. 質疑応答 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児に何から教えればいいのか？ 2. 毎月1日、誕生日など決めて行う。 3. 家族に障がい者や高齢者がいる場合は？ 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「子どもの命を守る学習記録」「子どもを守る防災教育チェックリスト」を説明。幼児でも、子どもの発達に応じて命を守る方法を教えておく必要がある(ダンゴ虫のポーズ等)。近所の散歩の際に危険個所を確認。避難経路は数通り想定しておく。
評価の観点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 参加者は、楽しく学べたか？ 2. 各家庭に戻って、家族防災会議をやる気持ちが高まったか？あるいは、すでに行っている家庭については、定期的かつ継続的に行うことの重要性に気づき、内容の見直しができたか？ 3. 防災クイズ・紙芝居・家族防災カード・子どもの命を守る学習記録・子どもを守る防災教育チェックリストは、有効だったか？ 			
参考資料	「家族防災カード」「子どもの命を守る学習記録」「子どもを守る防災教育チェックリスト」を活用する。			

● 第 1 回講座の様子(9 月 27 日(木)、長上公民館)



● 第 2 回講座の様子(10 月 26 日(金)、新橋体育センター)



● 第 3 回講座の様子(11 月 6 日(火)、子育て支援ひろばすずらん)



(自由記述2/3)

●防災クイズ



ぼうさいびび
親子防災クイズ

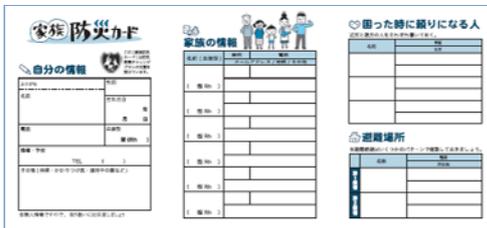
http://www.hamamatsu-pippi.net

蓄品(水や食料)は
「人数×1日分」
あればよい

×
「×3日分」
意しておきましょう。
おくと安心です。
持ち出せる状況なら、
おきましょう。

●家族防災カード

【大人用(表)】



家族防災カード

自分の情報

家族の情報

困った時に頼りになる人

避難場所

【子ども用(表)】



子ども防災カード

家族の情報

避難場所

家族の連絡先

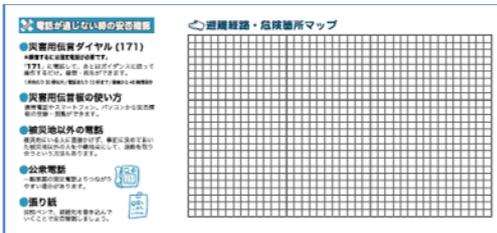
【子ども用(裏)】



このカードは
家族の防災教育の中心として
子どもが防災教育の中心になります。

家族の連絡先

【大人用(裏)】



電柱が通じない時の緊急連絡

災害時伝言ダイヤル(171)

災害時伝言ダイヤルの使い方

被災地以外の電報

公共電話

濡り紙

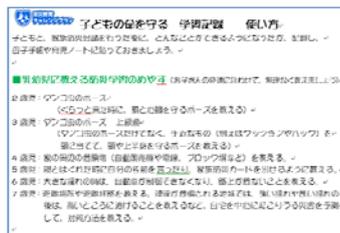
避難経路・危険箇所マップ

●子どもの命を守る学習記録

【表】

子どもの命を守る 学習記録		子どものお名前
2 誰のせいへ	3 誰のせいへ	
4 誰のせいへ	5 誰のせいへ	
6 誰のせいへ	7 誰のせいへ	

【裏】



子どもの命を守る 学習記録 使い方

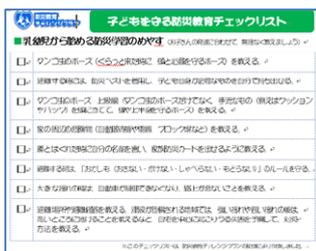
子どもと、家族の防災教育の中心として、このカードが使えるようになったら、家族みんなで学習記録用紙(裏)に記入しておきましょう。

学習記録用紙(裏)に記入する学習記録の目安

- 1 誰のせいへ
- 2 誰のせいへ
- 3 誰のせいへ
- 4 誰のせいへ
- 5 誰のせいへ
- 6 誰のせいへ
- 7 誰のせいへ

●子どもを守る防災教育チェックリスト

【表】

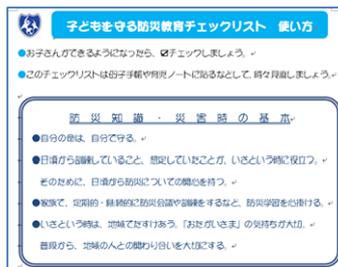


子どもを守る防災教育チェックリスト

家族から始める防災教育のめざす

- 1 ワンフロアコース(ご家族全員で 備と心を守るコース)を教える。
- 2 避難する時は、お父さんやお母さん、子ども全員が各自の役割をこなす。
- 3 ワンフロアコース(上階) ワンフロアコースだけでなく、非常時の 備と心を守るコース(ワンフロアコース)を教える。
- 4 家の周辺の避難所(避難場所や避難所)を教える。
- 5 備と心を守るコース(上階)を教える。
- 6 避難する時は、お父さん(お母さん)が先回りして避難し、子どもはその後ろから避難する。
- 7 大きな地震の場合は、避難所(避難場所)を教える。
- 8 避難する時は、お父さん(お母さん)が先回りして避難し、子どもはその後ろから避難する。

【裏】



子どもを守る防災教育チェックリスト 使い方

- お父さんができるようになったら、親子でチェックしよう。
- このチェックリストは母子手帳や特用ノートに貼るなどして、時々確認しよう。

防災知識・災害時の基本

- 自分の命は、自分で守る。
- 日頃から訓練していること、想定していることが、いざという時に役立つ。
- そのため、日頃から防災についての関心を持つ。
- 家族で、定期的に、継続的に防災学習や訓練をするなど、防災学習を続ける。
- いざという時は、地域で助けあおう。「おたがひさま」の気持ちが大助。
- 普段から、地域の人の助け合いを大切にしよう。

(自由記述: 3/3)